



沸る血汐に
打ち仰ぐ
(校歌より)

CONTENTS

P2 ▶ はじめに

P6 ▶ 第56回体育祭

P9 ▶ 弁論大会

P10 ▶ 第56回高専祭

P12 ▶ 活躍する仲間

P15 ▶ 学校通信

Special Interview

～はじめに～

令和3年度高専ロボコン
東海北陸地区大会顛末記

学生主事 中谷 実伸

令和2年春。私は学生主事を拝命しました。その直後に、翌令和3年の10月に行われる高専ロボコン東海北陸地区大会が、福井高専主管で行われることを知りました。私にとって、令和3年度高専ロボコン東海北陸地区大会は、このときから始まったのです。

私自身は、ロボコンに深く携わったことはありませんでした。会場やテレビで見たことはありますが、運営に関与したことはありません。これほど頼りない競技委員長はいません。幸いにして、ロボコン経験と実務経験が豊富な先生方にスタッフに入ってくださいました。事務的な手続きに関しては、頼りになる学生課のスタッフの皆さんがいました。これだけで、私にはとても心強い状況となりました。

会場は鯖江市総合体育館に、日程も令和3年10月24日と決まりました。

世の中はコロナ禍の影響が大きい状況です。令和3年4月には今大会の競技内容が発表されましたが、それはオンライン開催でもリアル開催でも、どちらでも対応できる「すごい!技のロボット」を製作するという内容でした。6月17日には本校出場チームの学内審査会が行われ、地区大会に出場する2チームが決定しました。

夏を迎え、コロナの影響は増すばかりでした。東海北陸地区では福井県以外のすべての県で「緊急事態宣言」または「まん延防止等重点措置」が出され、福井県も県独自の緊急事態宣言を発出していました。はたして本当にリアル開催で実施できるのか、大変不安な状況でした。

そして、ついに8月30日、NHKロボコン事務局から、今年度の地区大会をすべてオンラインで実施する、との連絡がありました。この瞬間、私たち運営スタッフの準備は、大きく方向転換をすることになりました。会場は鯖江市総合体育館ではなく、各高専となりました。運営の中心は福井高専からNHKに変更になり、本校のほとんどのスタッフは、お役御免となりました。

しかし、地区大会に出場する2チームには、大会期日の10月24日に向けての厳しい戦いが相変わらず続いていました。

大会前日の10月23日。本校第一体育館にて、テストランとリハーサルが行われました。ここでは各ロボットの動作や機構についての確認も行われ、危険性の有無、カメラアングルとマイクの調整などに関しても、運営側から注意が為されました。

そしていよいよ10月24日14時30分。令和3年度高専ロボコン東海北陸地区大会が開幕しました。福井高専はまず8番目にAチームが登場しました。ロボット名は「からくり流鏑馬(やぶさめ)倶楽部」。白馬に見立てたロボットが射手ロボットを乗せて移動し、射手ロボットが3つの的を矢で次々射貫くというものです。前日までの練習では的に当たっていたのですが、本番では残念ながら3つとも外れてしまいました。14番目にはBチームが登場しました。ロボット名は「STDIO.Humans(スタジオオッドヒューマンズ)」。操縦者の左肩に装着された装置の動きがロボットに転送され、コンピュータウイルスに見立てたジェンガをハンマーで取り除いていく、というものでした。こちらも前日までの練習ではジェンガを押し出していたのですが、本番ではなかなかうまくいきませんでした。

全17チームがパフォーマンスを終え、残念ながら福井

Special Interview

～はじめに～



高専は両チームとも入賞を逃しました。しかし、ロボット部の学生の皆さんは、コロナ禍やオンライン開催という制約の中で、毎日毎日遅くまで準備をし、当日も直前まで一生懸命に調整を頑張ってくれました。学生の皆さんと指導してくださった先生方に、賛辞と感謝の拍手を送りたいと思います。また、大会実施に当たり、ご協力・応援くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。結果はともかく、

出場した学生の皆さんにとっては、一生の思い出となる貴重な体験だったと思います。そういった場に携わることができたことにも、感謝をしたいと思います。

なお大会の様子はYoutubeで視聴可能です。

東海北陸地区の
様子はこちらから→



苦境を乗り越え、輝かせ未来を

教育後援会会長 板村 勝正

本年度教育後援会会長を拝命致しました板村と申します。会員の皆様には日頃より教育後援会の活動に多大なる協力、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。歴史と伝統ある福井工業高等専門学校 教育後援会会長は身に余る大役ではありますが、責務を全うすべく、微力ながら全力を尽くす所存です。皆様どうかよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年より世界はコロナウイルスによるパンデミックに陥りました。そして、今、私たちの生活は激変し、経験した事のない社会となっております。元の生活に戻るには数年かかるかも知れません。しかし、私たちの行動一つ一つでこの難局を乗り越えられます。落ち込んだ業界も手探りながらではありますが、新たなビジネスモデルへの変革が求められております。学校に於かれましても昨年は手探りで大変な一年だったのではないかと思います。

今年に入っては社会も良い意味、悪い意味にもコロナに慣れ、意識が低くなりがちです。しかし、学生の皆様は自分自身の行動に責任を持ち高専生活が社会への準備段階と考え、行動して頂ける事を願っております。

私には今でも忘れられない恩師の言葉があります。それは「学校で学んだ事を活かせる仕事に就ける事は非常に幸せな事」というものであります。高専生の皆様にはそのチャンスがあります。高専で高い知識、技術を学び、また自由度が高い学校である事から他校と違い自主性も学ぶ事が出来ます。それこそが企業が求める人材であります。福井高専、基本理念である「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」これこそが福井高専。学生の皆様、これからの人生を豊かにするには今をどのように行動し、考え、学ぶかで決まります。今を一所懸命に学生生活を楽しみませんか。そして、先生の皆様も学生に寄り添いながら個人の成長を促して頂けませんかでしょうか。

本年度も手探りの行事ごとで教育後援会としても少しでも学生の皆様のサポートが出来るよう、学校と相談しながら対応して参ります。会員の皆様に於かれましてもご理解、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

Special Interview



コロナ禍にあって

1年担任 木村 美幸

最近、研究の関係で太平洋戦争中の長野県の新聞を読んでいます。戦争によって様々な活動が制限されていく様子が良く分かります。一方で、こうした戦時下においても、どうにかして普段の生活を維持しようとする動きも随所にみられます。

今、私たちは色んな制限の中に生きています。入学したばかりのみなさんにも、多くの制限があり、夏休みに思っただような活動ができなかった人も多かったと思います。ですが、私たちは今この状況を画期的に打開する手段を持っていない以上、工夫をして乗り切るしかないのだと思います。今年は昨年とは違い、様々な行事が行われます。それらの行事を全力で楽しみ、来年以降にどう活かしていくかを考えることが重要なのではないのでしょうか。

私には、このコロナ禍が将来どのような影響を与え、「歴史」になっていくかは想像することもできません。しかし、その時にその時代を生きた一人の人間として、自分の経験を伝えられるのは、みなさんしかいないのではないかと思います。一緒に工夫して、この状況を乗り切っていきましょう。

初めての前期

2年担任 柳原 祐治

今年度の2年生は、昨年度4月に入学した直後から約半年間、遠隔授業を受けたイレギュラーな学年です。つまり、他の学年と違い、今年度4月の段階で、福井高専における通常の前期の学校生活を全く経験していない、特異な学年です。そのため、4月から担任をするにあたっては、皆さんが初めて経験する前期の学校生活を、支障のなく送ってもらえるよう留意しました。新しいクラスでもあり、戸惑いもあったかと思います。現時点で、今年度は半分以上が終わりましたが、初めての前期はどのように感じたのでしょうか。実際のところ、今年度も、様々な行事が中

～はじめに～

止になり、また「オンラインで行う」「規模を縮小して行う」など、やはり通常モードでない状態となっています。しかし、このような状況は、いい意味でも悪い意味でも、貴重な経験であったと思いますし、どんな経験も、今後の発展につなげられると思います。私にとっても、クラス担任や授業という仕事について、今一度考えなおし、進化させるよい機会となりました。コロナウィルスも進化しますが、人間も進化できると思います。これを機会に、皆さんにも多めに進化してもらい、この学年が、福井高専をいい意味で変えていけるような、大きな原動力に育ってくれるとうれしく思います。

大人になるとき

3年担任 千徳 英介

ディズニーの子会社となったピクサー社が2008年に製作した3DCGアニメに「ボルト」という作品がある。主人公ボルトは、生まれた時からスーパードッグを演じるためにスタジオ内で育てられてきた子犬である。そのため、ボルトは吠えれば物を吹き飛ばせるようなスーパーパワーを備えていると思い込んでいる。ある日ひょんなことから飼い主の少女を追いかけて、スタジオから遠く離れた街に運ばれてしまう。スタジオへ帰る旅路で危機に陥りスーパーパワーを使おうとするが、どうしても使えないことに気づき、思い悩む。最後は、本当の自分に気づいたボルトが精一杯の持てる力で飼い主の少女の救出に向かい大団円となる。この物語では、外の世界を通して自分を客観視し、思い描いていた自分とのギャップに苦悩しながらも、本当の自分を受け入れて大人になるプロセスを描いている。また、これはあきらめの物語とも言える。ボルトがスーパードッグに戻ることをあきらめずにいれば勇気を出して飼い主の救出に向かうことはできなかったであろう。

高専3年生は、ちょうどボルトのような時期である。授業が難しくなり、ある程度現実を突きつけられ、入学時に思い描いていた姿との乖離に苦悩しながらも、目前に迫る将来に立ち向かわなければならない。今が大人になるときである。

Special Interview

～はじめに～



当たり前と当たり前でないもの

4年担任 秋山 肇

今年のインターンシップ研修は昨年に引き続くコロナ禍で色々と変則的な扱いになりました。4年生各学科の学生はとても苦労されたと思います。対面がオンラインに変更となっただけでなく、対面であっても企業の施設へアクセスする為にPCR検査の結果確認を求められたり、本当に面倒な事が多かったですね。しかし、反対に諸君が社員の立場にたったらどうでしょうか？企業にとってインターンシップは学生諸君に企業活動を直に体験してもらう絶好の機会である一方、外部の人を受け入れることで感染リスクを背負うことにもなります。このジレンマをどのように乗り越えるべきかという考え方は企業の業種や社風によって異なり、諸君はその一端を経験したのです。「厳しすぎてゲンナリした」、「社員の意識が自分とは違うことが認識できた」等色々感じたことがあると思います。立場を換えてこの感想について考えてみると見えてくるものはありませんか？「自分にとって当たり前と思っていたことが、相手にとって当たり前ではなかった」又はその逆であることに気が付けば社会人に向けて一歩前進です。

因みに筆者は初めて4年生の担任を務め、インターンシップの仲介業務を経験しました。コロナ禍が深刻度を増す中で自身は右往左往していましたが、ベテランの先生方は的確に対応されているのが印象的でした。諸君はどう感じたでしょう、「当たり前」でしたか？

有意義な最後の1/10

5年担任 亀山 建太郎

今でもはっきりと覚えています、内定式が終わり次の行先も確定した大学院修士2年生のこの時期、自分は、毎日研究室で、「早く就職したい」と思っていました。その理由は主に、目前に迫る修論提出から目を背けていたからです。学生生活に飽きていたというのも少しはあったかと思っています。一方で、やり残しが無いかという今思え

ば決してそうではなく、戻れるものなら戻ってセルゲイ・ブリングらいにはなりたいたいと思うのですが、何故当時そう思わなかったのか実に疑問です。かといって、何もせず平らかに過ごしていたわけではなく、それなりに一生懸命研究して(卒業したいので)、目を逸らした先では情報処理試験を受けたり(機械科なのに)しており、それは現在の飯のタネになっているので無駄ではなかったわけです。一方で、セルゲイだって、現在のGoogleを確信ばく進していたわけでは無い(と思う)ので、自分とセルゲイの違いは、まあ、性能の違いはあるにせよ、夢中になったものの筋の良さ※と突っ込み具合じゃないかなと思ったりするわけです。結局何が言いたいかというと、残り少ない高専生活ですが、全部突っ込んでますかということです。突っ込んでください全部。1年生もあと4年しかないですよ。(※ 筋が良いものに興味を持つということ自体頭が良いともいえる)



Special Interview



体育祭について

学生主事補 西城 理志

コロナ禍を通して、人間にとって必要であったり大事であったりするものについて考える機会が増えるようになりました。体育祭もそれを表す一つではないかと思っています。

体育祭はコロナ禍以前に比べれば縮小開催とは言え、昨年度よりは規模を拡大して開催されました。その中で、学生会の皆さんが常に重要視していたのは、応援合戦でした。競技がなかった昨年は演舞披露会と名を変え、本年度は応援合戦に名を戻し、いかな状況であってもこの文化を繋げようとする学生の皆さんの強い意志を感じました。これはもちろん応援合戦に参加している学生一人一人にも同じものを感じます。職業に必要な能力を育成するという高専において、直接的に重要性を示唆できるものではなく、煙たがられることもあるイベントですが、ここから学生たちはたくさんのことを学び感じるのだらうと思います。

一方で、競技内容の方は○×ゲームという、少々例年とは趣の異なるものがありました。体育祭の企画なのだらうかと疑問に思う内容ですが、観戦していた先生方には減法好評でした。参加した学生の評価は分かりませんが、変容する社会に沿って体育祭や高専祭などのイベントも、少しでも皆が楽しめる形に変えていけば良いのではないかと思います。

技術進歩に伴う社会変容の速度は、近年富に増えています。色々と不便なことが多いコロナ禍ですが、変化に対応するという能力を高める良い機会ではないかと思っています。皆さんがこれから生きる世界と、先生方が生きてきた世界は違います。生きる上で大切なことをしっかり学びながら、変化できる柔軟さも身に付けて欲しいと思います。

～第56回体育祭～

体育祭について

体育祭実行委員長 機械工学科4年 丸木 壮太

昨年に引き続き今年もコロナ禍での体育祭となりましたが、昨年の演舞披露会で得た経験を基に、より例年に近い形式で開催出来た事を嬉しく思います。しかし、「当日の声出し禁止」「録音での応援披露」等、多くの制限がある中で新しい形式の体育祭を作りあげていく事は簡単ではありませんでした。僕が未熟なばかりに、教職員の皆様を始めとする様々な方々にはご迷惑をおかけし、惜しみないご支援を頂きました。皆さんの協力がなければ体育祭は開催出来なかったと思います。来年はこの経験を活かして、後輩達がより大きな規模で皆さんが安全に楽しめる体育祭を開催してくれると期待しています。また、応援は制限があるにも関わらず、素晴らしいものでした。福井高専で脈々と受け継がれている伝統を自分達の代が絶やしてはならぬという強い意思を感じました。

最後になりますが、今年度の体育祭開催に協力して下さいました皆さん、ありがとうございました。新型コロナウイルスが1日でも早く終息し、皆さんが安心して楽しめる体育祭が戻って来る事を願っています。



～第56回体育祭～

B



M

EI



C

E



Special Interview

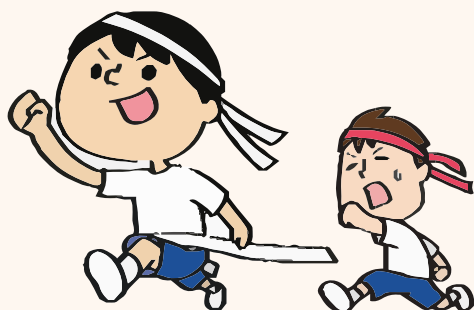


体育祭に参加して

物質工学科3年 東 飛我

今年の体育祭は、コロナ禍で開催されましたが、感染予防を徹底し行われました。私は色別演舞(応援)に初めて参加しました。コロナ禍という事があり、マスク着用、ソーシャルディスタンスや本番での声出しを禁止し、事前録音した声と合わせて演舞を行う形式で行われました。今年の応援の練習は、例年通り、夏休みから始まりました。これまで応援に参加したことがない私は、初日の練習でとても緊張していたのを覚えています。しかし先輩方がとても優しく話しかけて頂いたり、気遣って頂き、少しずつ練習や場に慣れていきました。私たちの組では、1番の目的として「他学年との交流を深めること」や「全員で楽しさを共有すること」を掲げていました。応援団のおかげでこれまでに交流のなかった先輩方や後輩たちとの交流を深められたのはもちろん、同じクラスの友人との絆もさらに深める事ができました。先輩方はとても優しく、面白い方達ばかりで、私も先輩方のようになりたいと強く思いました。私たちの組の応援は結果的に3位となりましたが、とても記憶に残り、かつ組の目的であった「他学年との交流」や「楽しさの共有」を達成できたと考え、私にとってはとても記憶に残る応援ができたと思います。この先も積極的に様々な人たちと交流を深め、充実した生活を送りたいです。

私は今回の経験から何かに向かって頑張ることで感動が生まれること、最後まで全力でやり切ることの大切さを学ぶことができました。今回の経験を今後の学生生活、そして来年に行われる応援に活かしていきます！



～第56回体育祭～

第56回体育祭成績一覧

《種目順位》

種目	順位	1位	2位	3位	4位	5位
第1学年全員リレー		緑	白	黄	青	赤
第2学年〇×クイズ		白	黄	赤	青	緑
第3学年玉入れ		黄	赤	白	緑	青
第4学年選抜リレー		赤	黄	青	白	緑
色別対抗リレー		黄	青	白	赤	緑
応援合戦		黄	赤	白	緑	青

※黄色塗りつぶしは同率2位

総合
優勝 **黄組**



Special Interview



弁論大会という文化

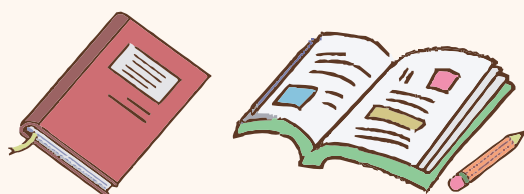
学生主事補 古谷 昌大

2021年10月15日、高専祭に先立ち、弁論大会は“REBOOT”しました。感染症予防対策としてメイン会場の人数制限、会場レイアウトの大胆な変更、各教室へのライブ配信等、新しいことに果敢にチャレンジしました。福谷文化委員長をはじめ、学生会、放送・メディア研究会の皆さん、文化委員の皆さん、関係の先生方、そして弁士の皆さん、本当にお疲れ様でした。

ディベートでの肯定・否定は、試合直前に決まります。弁士は試合に臨む際、肯定側・否定側双方に立った主張両方について準備します。……つまり、準備できるのです。自ら判断し選択するために、物事の二面性の把握に努める一情報溢れる今の時代、疎かになりがちですが大切なことです。将来、技術者・科学者として工学・科学に携わっていくときにも必要となるであろう物の見方です。弁士の皆さんは、大変な準備の中で良い経験をされたのではないのでしょうか。

もう一つ、弁論大会に参加した全ての学生さん達に身に付けてほしいことがあります。それは、「自分の主張を一旦横に置き、相手の主張を（たとえ真逆の主張であっても）冷静に聴こうとする姿勢」です。試合では、主張や質疑の機会が平等に確保されますが、同様のルールを日常にも応用できたら素晴らしいです。

弁論大会は、本校の良い文化の一つであると思います。学生が主体となり、今後ますます進化していくことを期待します。



弁論大会を実施して

文化委員長 機械工学科4年 福谷 和信

弁士の皆様、弁論を視聴した1年生から3年生の皆様、弁論大会にご参加いただきありがとうございました。音声トラブルなどで満足に視聴できなかった方もいるかと思います。来年は今年の反省を活かし、より良い弁論大会にできるようにしていきたいと思っています。

さて、学生の皆さんの中にはなぜ弁論大会を行ったのか、よく分からなかった方もいらっしゃると思います。弁論大会はなんのためにあるのか。それは、人の意見を受け入れるという姿勢を学ぶためだと思います。世の中には多様な文化や言語、考え方があります。中にはすぐに受け入れられない意見もあるでしょう。しかし、社会人になると、そのような意見に出会う場面が出てくると思います。そこでは、自分の意見を相手に納得させる力よりも、相手の意見を尊重して聞き入れる力の方がむしろ必要になります。今回の弁論大会を通して、そのような力を少しでも身につけていただけたら幸いです。

今年の弁論大会は新型コロナウイルスの感染防止のため、初のオンライン開催になりました。また、私自身も文化委員としての活動がほとんどない状態からのスタートでした。弁論大会を無事終わらせることができたのは、学生会、放送・メディア研究会、文化委員の皆様、諸先生方のおかげです。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。



Special Interview



高専祭について

学生主事補 波多 浩昭

今年度福井高専の高専祭は4月当初から実行委員を悩ます問題が山積でした。コロナ禍や、寮の建替えや武道館改修工事による開催場所など、そもそも開催自体が危ぶまれていました。全国的にはコロナ禍の第4波が収束した6月末に福井県ではピークが訪れ、高専祭準備など一時停止します。学生会のみならず、第5波のピークが8月下旬にあったことより露店やイベントへの出店、出演を検討していた多くの学生にとっては、非常に難しい判断であったと思います。

それでも実行委員の皆さんの、半年前から困難をひとつずつ丁寧に解決しながら計画を進めていった行動と、このような状況だからこそ高専祭を実現したいという強い意志が学生全体に伝わったのか、出店・出演者やスポンサー企業も高専祭開催に足る応募数となりました。さらに開催当日はまるで狙っていたかのような第5波の収束を背景に、メインステージでのイベント観覧は満席になり、一部の露店店舗では売り切れ状態となり一時閉店して材料の調達に走るという様子が見られました。最終日の花火の直後には地域住民の方から元気が出たと感謝のお電話まで頂戴いたします。春のころの状況を知っている我々担当教員にとってもこの2日間の成功は正直驚きでした。これも学生の頑張りに共感していただいた、地域住民の皆様、協賛企業様、保護者の皆様のご支援のおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。



高専祭について

高専祭実行委員長 機械工学科4年 錠詰 浩平

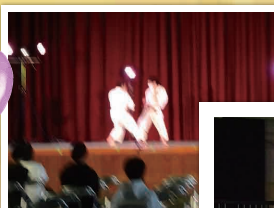
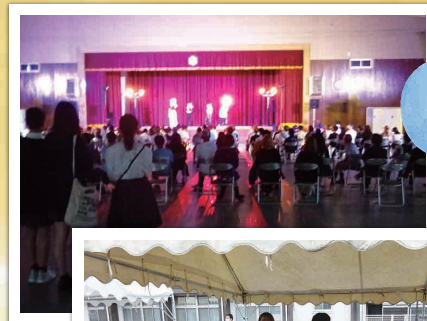
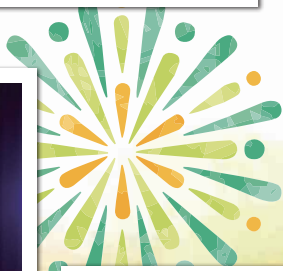
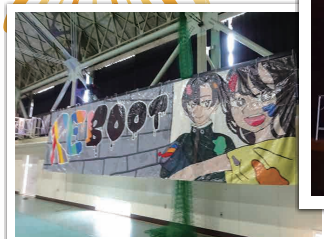
第56回福井高専祭は、新型コロナウイルス禍であることや花火大会を行うことなど新しいことばかりでした。しかし、実行委員の仲間達や高専祭に参加してくれた学生、協力してくださった教職員の方々、そして今年度の高専祭の開催方法についてご理解していただいた青武台の方々ののおかげで成功することができました。高専祭には本校の学生と教職員の方しか参加できませんでしたが、二日間合わせて延べ約700人の方に参加していただきました。

私自身も高専祭は二年ぶりでしたが、前任の高専祭実行委員の方々に実行委員の仕事内容や心構えを学ぶことで、高専祭実行委員長であることを改めて自覚し高専祭に臨みました。人との繋がり大切さを感じました。高専祭当日は信頼のできる企画部門、露店部門、電源部門、装飾部門、厚生部門、パンフレット部門、会計部門の部門長や実行委員のおかげで安心して高専祭を運営でき、大きな問題もなく高専祭を終えることができました。実行委員として高専祭に参加してくれた学生には感謝しかありません。

また、今年度は高専祭以外にも体育祭や弁論大会など、昨年度にできなかった行事がすべて開催することができ、再び福井高専が活気付いたと思います。来年度以降も、より福井高専を盛り上げられるように実行委員一同尽力していきます。



～第56回高専祭～



Special Interview

～活躍する仲間～

令和3年度 教育後援会研究奨励一覧

申請者		研究題目	指導教員	交付金額(円)
環境都市工学科4年	渡辺瑚乃羽	全国高専デザインコンペティション 紙を用いた橋梁模型の製作	樋口 直也	100,000
環境都市工学科3年	後藤 和瑚	全国高専デザインコンペティション 空間デザイン部門参加に向けた取り組み	野々村善民	83,000
環境都市工学科3年	野々垣修慶	画像測量を用いた建設ストックの3Dモデルの作成 日本建築学会情報シンポジウム2021における研究発表に挑戦	野々村善民	76,100
F2	武田 輝良	F2クラス全員で取り組むスーパーボールの跳躍力に関する研究	古谷 昌大	67,526
機械工学科4年	福谷 和信	HONDAエコマイレッジチャレンジへの参加	門屋 飛央	60,711
電子情報工学科3年	武藤 青以	高専ロボコン2021に出場するロボット(Bチーム) 「Ctrl+Vehicle(コントロールビークル)」の製作	伊勢 大成	150,000
環境都市工学科4年	大久保洋平	高専ロボコン2021に出場するロボット(Aチーム) 「サジさん」「タリウス」の製作	千徳 英介	150,000
			合計	687,337



令和2年度 教育後援会奨励研究概要報告

全国高等専門学校デザイン
コンペティションでの成長

環境都市工学科4年 南部 紗季

私たちは、デザコン2020 in Sendaiでの構造デザイン部門に参加しました。

今回は、厳しい設計条件の中で50kgの载荷に耐える紙製の橋梁模型を作る必要がありました。コロナ自粛期間中での活動だったので、限られた時間の中で完成させることが求められました。このような状況でも、先輩方や新入生と上手く連携を取りとても満足のいく橋を作ることが出来たと思います。全体の結果は7/35位と高成績を残すこともでき、来年への意欲に繋がりました。私は今回が初めてのデザコン参加となりましたが、ただの紙から人の工夫と技術で橋をつくる事が出来るということに感銘を受けました。来年は、今よりも納得いく橋を、今回の成績よりも上を目指して行けたらと思います。

ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

高専ロボコン2020に参加して

機械工学科4年 上坂 征生

私たちBチームは、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2020」に出場するためのロボットを製作しました。今回の競技は、コロナ禍で行われることもあって「人を幸せにするロボットを作る」というテーマの下で行われました。そこで私たちは映像を立体的に映し出すホログラムを活用したロボットを製作しました。

本番では自分たちの満足できる動作ができず、全国大会に出場することはできませんでしたが、過去に使ったことがないプログラミング言語や機構を使用するなど新たな試みを多く行ったことで、ロボット部として得たものは非常に大きいと感じています。

今回の経験を糧として、来年こそ全国大会出場を目標に精一杯活動してまいりますので、今後とも応援よろしくお願い致します。

また、新入部員も随時募集しているので、少しでも興味が湧いた方は機械実習工場裏へぜひお越しください。

Special Interview



高専ロボコン2020に出場して

環境都市工学科4年 大久保 洋平

私たちAチームは、「アイデア対決、全国高等専門学校ロボットコンテスト2020」に出場するためのロボットを製作しました。今回の競技は、オンラインで開催され、見た人々をハッピーにするパフォーマンスをするという競技でした。

今回私たちが製作したロボットは手動ロボットの「ふくじん」です。このロボットは、ロボット全体が回転して移動し、ロボットの側面にある16セグメントで表した文字を、次々と見せてメッセージを送ることで、見ている人々をハッピーにしよう、というロボットでした。

惜しくも決勝でのパフォーマンスは叶いませんでしたが、アイデア賞と特別賞の二つの賞を受賞することができました。

また、今後の活動も頑張っていきたいと思いますので、応援よろしくお願いします。

エコマラソン長野2021に出場して

機械工学科4年 福谷 和信

エコマラソン長野に出場するため、私たちは車両を製作しました。エコマラソンとは、自作の車両にバイクのエンジンを載せてコースを走り、速さではなく燃費を競い合う大会です。今年度の活動では、主に車体を中央で分断し、自動車に積載できるようにするなどの工夫を凝らしました。そして、9月17、18日に行われたエコマラソン長野2021に初めて参加しました。初出場ながらも4回走行してすべて完走でき、記録を残すことができました。来年度は車体を一新させ、燃費向上を目標に頑張っていきたいと思います。



～活躍する仲間～

ブラシレスDC モータのベクトル制御に関する研究

電気電子工学科卒業生 江守 祐樹

私は、ドローンなどに使用されるブラシレスDCモータの制御方式(ベクトル制御)を消費電流の観点から比較しました。モータの制御方式や回路に興味を持ち、このテーマを選択しました。教育後援会の援助により、実験のための装置の購入が可能となり、より良い研究ができたと思います。研究室内で初めて扱う装置だったので、扱えるようになるのに時間を要したのが大変でしたが、成果を上手くまとめられました。この研究の経験を今後生かしていきたいと思います。最後に、ご指導していただいた秋山先生と援助の御裁定を頂いた学生課関係者の皆様に感謝申し上げます。

アンテナ設計コンテストへの挑戦

電子情報工学科卒業生 三崎 和紀

オンラインで行われたISAP2020という国際シンポジウムに初めて参加しました。そして、シンポジウムに提出するためのアンテナを設計・試作しました。

私が参加した部門は「Student Design Contest」であり、世界中の学生が、設計・試作したアンテナを提出し、アンテナの性能、利得、見た目について審査する部門です。私は、優勝することを目標として、4年生の12月から1年間アンテナの研究を行いました。

審査には予選と本選があり、予選はA4の英語原稿4枚、本選はアンテナの測定データを含むA4の英語原稿4枚と15分の英語プレゼンで審査されました。

結果として、最終選考にまで残りましたが、入賞することはできませんでした。しかし、今回経験したアンテナ設計・試作についての技術や英語のプレゼンテーションの経験は、今後の社会人生活に役立つだろうと考えています。

Special Interview



図書館のオリエンテーション 動画の撮影及び編集

機械工学科5年 木村 竜己

コロナ禍で、多くの学生を集めることが難しく、遠隔授業が実施されており、学生が登校する機会が限られていた中で図書館を紹介するために動画を作成しました。



越前市長杯争奪 高校野球大会に優勝して

電気電子工学科3年 濱 歩空



越前市長杯争奪高校野球大会で48年ぶりに優勝することが出来ました。秋の大会で思うような結果が残せず、またコロナウィルスの影響で様々な不安がある中で先生方の協力により集中して練習に打ち込むことができました。そこで、ときには厳しい意見交換を行いながら自分達を一から見直し、チーム力の向上を目指すことが出来ました。その後の県大会では思うような結果を残せませんでしたが、市長杯でこのような結果を残せたこと、そして笑顔でプレーをできたことを誇りに思います。

最後に、私達は協力や応援をいただいた全ての方々のおかげで野球をすることができ、優勝することができました。心から感謝します。本当にありがとうございました。

～活躍する仲間～

企画書の作成から始まり、秋頃より撮影を開始しました。図書館について、学生にわかりやすい動画を制作できるように注意しつつ、担当者には原稿の作成や、その原稿での音声録音、学生から見た利用法等の検討をしてもらいました。図書館の皆さんに修正箇所を指摘していたきながら動画作成を進めつつ提案された箇所の修正の後、最終確認を行い、昨年度の図書館長の森先生に提出しアップロードを行いました。

挑戦してみて

電子情報工学科4年 前川 蒼



今年の4月私はディープラーニングコンテストというモノづくりとディープラーニングで作成した作品を事業性で評価するコンテストで優勝しました。このコンテストで私は主にビジネス関係の役割でした。人生で全く経験したことのない売上げ予想の作成や売上高、実装にかかるコストの計算などを行いました。自分のやったことのない事をやることは新鮮で楽しく失敗もたくさんありましたがメンターの方の手助けもあり、無事に発表までこぎつけることができました。今回の経験を経て挑戦することの大切さ、失敗することが恥ずかしいことではないということ学びました。

～学校通信～

令和3年度第1回 学生表彰受賞者一覧

校長賞 起業家甲子園2021出場並びに受賞

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名	備考
電子情報工学科5年	横山 真央	電子情報工学科5年	宮田 知浩	起業家甲子園(ファイナリスト) ・ABC賞 ・IBM BlueHub賞
電子情報工学科5年	山村 悠馬	電子情報工学科5年	松田 佳大	

奨励賞 1年間学業成績優秀者

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
機械工学科5年	大坂 昂太郎	機械工学科4年	谷口 匠	電子情報工学科3年	泉 秀哉
機械工学科5年	酒井 達也	機械工学科4年	福谷 和信	電子情報工学科3年	梅田 高充
機械工学科5年	中川 太陽	電気電子工学科4年	木下 颯	電子情報工学科3年	富坂 弘一
機械工学科5年	長谷川 篤哉	電気電子工学科4年	田中 伶奈	電子情報工学科3年	山岸 優宏
電気電子工学科5年	菅原 真実由	電気電子工学科4年	出丹保 雄基	物質工学科3年	三池 遼香
電子情報工学科5年	石川 晴基	電気電子工学科4年	蜂谷 良希	物質工学科3年	岡田 ひなた
電子情報工学科5年	岡田 篤哉	電気電子工学科4年	馬淵 涼平	環境都市工学科3年	窪田 多久見
電子情報工学科5年	清水 陸	電気電子工学科4年	矢路 耀	環境都市工学科3年	佐々木 飛翔
電子情報工学科5年	宮田 知浩	電子情報工学科4年	小川 大翔	電気電子工学科2年	伊藤 宏基
電子情報工学科5年	山口 憂人	電子情報工学科4年	下牧 利玖	電気電子工学科2年	大谷 治輝
電子情報工学科5年	山村 悠馬	電子情報工学科4年	竹島 駿介	電気電子工学科2年	駒野 真琴
物質工学科5年	市橋 実和	電子情報工学科4年	林 明香里	電気電子工学科2年	竹下 朔也
物質工学科5年	伊藤 蒼生	電子情報工学科4年	村中 冬和	電気電子工学科2年	虎田 康佑
物質工学科5年	伊藤 千騎	電子情報工学科4年	森下 航聖	電子情報工学科2年	内山田 湖太
物質工学科5年	大塚 滉生	電子情報工学科4年	吉田 創	電子情報工学科2年	中尾 悠
物質工学科5年	小谷 啓仁	物質工学科4年	伊部 実由布	電子情報工学科2年	彦坂 天壘
物質工学科5年	川端 優生	環境都市工学科4年	有城 健祥	物質工学科2年	河村 勲士
物質工学科5年	千京 律斗	環境都市工学科4年	大久保 誓也	物質工学科2年	細田 真夕
物質工学科5年	辻 優香子	環境都市工学科4年	大谷 悠莉	環境都市工学科2年	小林 洸太
物質工学科5年	中村 颯汰	環境都市工学科4年	瀬古 光太郎	環境都市工学科2年	佐々木 俊亮
物質工学科5年	東 一花	環境都市工学科4年	田中 こころ	環境都市工学科2年	高間 海友
物質工学科5年	松本 皓大	機械工学科3年	駒 壮悟	環境都市工学科2年	保木 克也
物質工学科5年	宮崎 夏凜	機械工学科3年	廣田 成史	環境都市工学科2年	室田 晃佑
物質工学科5年	室田 彩乃	電気電子工学科3年	市村 音羽	環境都市工学科2年	山田 望由奈
物質工学科5年	渡辺 絢晴	電気電子工学科3年	高橋 壮汰		
環境都市工学科5年	下野 輝生	電気電子工学科3年	濱 歩空		

奨励賞 TOEICの成績優秀者

学科・学年	氏名
機械工学科5年	OIDOV ANKHBAYAR
電子情報工学科5年	石川 晴基

奨励賞 ふくいソフトウェアコンペティション2020大賞受賞

	学科・学年	氏名	備考
プログラミング研究会	電子情報工学科5年	佐野 友亮	Labocket(ラボケット) -XRによる理科学習 アプリケーション-
	電子情報工学科5年	石川 晴基	
	電子情報工学科5年	鈴木 琢人	

Special Interview

～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が19、文化部が7、同好会が15あり、幅広い分野で活発な活動が行われています。



体育部 陸上

陸上は基本的には個人競技ですが、全国高専大会出場を目標にチーム一丸となって練習しています。また、県大会にも出場し、上位大会に出場できるように日夜励んでいます。

指導教員 東 章弘、山田 哲也、挽野 真一



体育部 ソフトテニス

ソフトテニス部は、経験者だけでなく、初心者も一緒に楽しく汗を流しています。基本部活は平日の放課後行っており、休日は休みです。より充実した学校生活を過ごせる部活にしていきたいです。

指導教員 佐藤 勇一、小松 貴大



体育部 剣道

剣道部では剣道経験者が多いので、高専に入ってから剣道を始める初心者さんには経験者がサポートし、すぐに上達できます。練習はキツイけどやりがいの多い部活動です。ぜひ、興味のある人は見学に来てみてください。

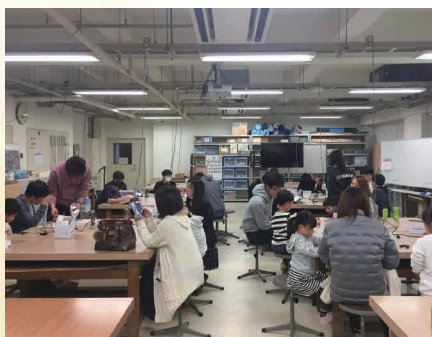
指導教員 中谷 実伸、丸山 晃生、堀川 隼世、川畑 弥生、古谷 昌大、高橋 奨



文化部 アマチュア無線研究会

アマチュア無線研究会では、無線従事者資格を取得した上で、電話交信やモールス通信、デジタル通信を国内外と行っています。興味ある人は、コールサインである「JA9YDB」を検索し、活動内容をチェックしてください。

指導教員 東 章弘、波多 浩昭、斉藤 徹



同好会 サイエンスクラブ

サイエンスクラブは毎週火曜日に実験室に集まって活動を行っています。例年は展示会や子供向け工作教室を行っています。今年はコロナの影響で外での活動できていなくて残念です。そのかわり自分の好きな実験や、写真撮ったりしています。

指導教員 長谷川 智晴、挽野 真一、秋山 肇



同好会 フットサル

僕たちフットサル同好会は月曜日と木曜日に活動しており、練習時間は19時から21時頃まで、場所は第2体育館で行っています。初心者の方も経験者と混ざって切磋琢磨練習を頑張っています。

指導教員 門屋 飛央

その他の部・同好会一覧

体育部門

- 卓球
- 男子バスケットボール
- 女子バスケットボール
- ラグビー
- サッカー
- 野球
- 男子バレーボール
- 女子バレーボール
- バドミントン
- テニス
- ハンドボール
- ソフトボール
- 少林寺拳法
- 水泳
- 合気道
- 軟式野球

文化部門

- 英語
- モダンミュージック
- 吹奏楽
- 囲碁・将棋
- ロボット
- 放送・メディア研究会

同好会

- 天文
- 茶道
- 日本現代視覚文化
- ダンス
- 音鍵研究会
- Structural Design研究会
- スポーツライミング
- グラフ電卓研究会
- 珈琲
- 空間デザイン研究会
- 小型模擬人工衛星
- プログラミング研究会
- 書道

Special Interview

～学校通信～



感性を信じる

物質工学科 松野 敏英

バッタ、カマキリ、チョウ、トンボ、セミ、カエル…。4歳の息子は常に虫捕りに行きたい。居間に置いてある小さな飼育ケースにいつも生き物がいる。虫と同居すると事件が起こる。5匹のヒメカメノコテントウが蓋の隙間から脱走した。わが子が大喜びする中で親は慌てて捕まえた。

ぼくの専門は「微生物」である。それは大学でなんとなく選んだ研究室。当時の気持ちは、やってみてもいいかな、くらいだった。研究は、誰も知らないことを解明するのだから、苦勞がすくなくない。試行錯誤するうちに、いつの間にか魅力にハマった。この世界は、楽しいことが沢山、苦しいことが超沢山、かれこれ20年も微生物屋を続けている。

もしも読者のみなさんが、なにかの分野にすこし興味があるなら、しめたものだ。最初から難しく構えなくてよい。一足とびに完璧になることはない。ある内容を知ろうちに周りの事柄がどうしても必要となれば、自然に、仕方なく、他も勉強する。

あなたの感性を信じて、自分が見つけた小さな好みを大きくすくすく伸ばしてほしい。道中は四苦八苦の連続だろう。君のたどり着く未来が楽しみである。



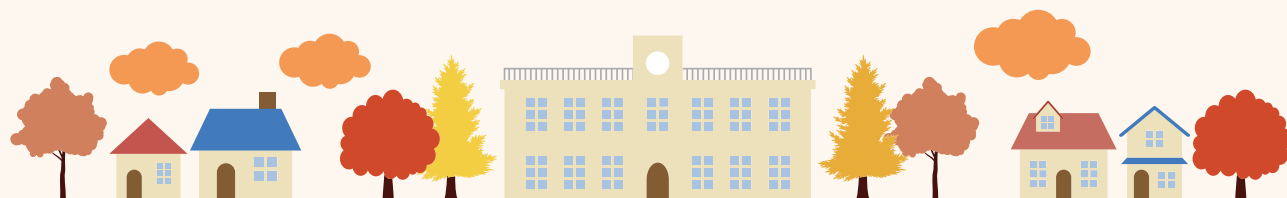
6度目の春は

環境都市工学科 蓑輪 圭祐

2021年。福井高専で迎えた春は例年より暖かく、桜の開花も早かったと記憶しています。2009年からの5年間で過ごした思い出の地は、一般教育棟が新しくなっていたり、2階にあったはずの図書館が1階に移動していたりと、変わっていたものも少なくありません。5年間生活した青武寮も一部が新しく建て替えられることになり、工事の作業音のする教員室で、この原稿の筆を執っています。時代の流れや変化に合わせて、福井高専も時々刻々と変わっています。そのなかで、学生時代お世話になった諸先生方が、昔と変わらぬご様子で暖かく迎え入れてくださったことをとても嬉しく思っています。

高専在学中はMMCに所属し、ボーカルとギターを担当していました。大学院の修士課程を修了してからバンド活動はしていませんでしたが、久々に教員と学生でバンド活動をする事になり、日々練習に励んでいます。ギターを背負っている小室圭さんに似た人を見かけたら、気軽に声をかけてください。

福井高専OBとはいえ、教員としてはまだ1年目。慣れないことは多々ありますが、ひとつひとつ着実にこなし、成長せねばなりません。学生と共に大きく成長できるよう、万事に全力で取り組みます！



Special Interview

～学校通信～



「高専」という選択。

環境都市工学科 芹川 由布子

わたしは15歳で土木の道に進むことを決めましたが、実を言うと志望していた物質工学科に受からず、不本意な進路選択となりました。強い意志を持った入学ではありませんでしたが、高専特有の風土が自分に合っていたためか、今ではなんと「高専の先生」になっています。

高専卒業後は金沢大学の博士課程を修了し、松江高専の教員を経験した後に、母校へ戻ってきました。環境が変わる度「この選択でよかったのか」と毎回不安を抱いていましたが、今は充実した本当に楽しい毎日です。今後おとずれる決断の場面においても、自分の選択に後悔せず、後に「この選択が自分にとって最も良い選択であった」と胸を張って言えるような人生を送りたいと思っています。

この専攻は希望して進んだ道ではありませんが、これまでの人生の中で一番大きな選択になったと感じています。こう振り返ってみると、今はうまくいかないことでも、長い目でみて頑張ってみようという気になれます。今はまだ慣れないことばかりの毎日ではありますが、退職する日には「高専教員という選択は今までの人生の中で一番良い選択だった」と言えるよう、楽しみながら、学生のみなさんと一緒に成長していきたいと思っています。



数字が苦手な私が 福井高専で思うこと

一般科目教室 池田 彩音

本年度4月から一般科目教室(国語)助教に着任しました池田彩音と申します。授業を担当している学生の前ではよく言ってしまうのですが、私は数字を見ると混乱します。すべてを数字のせいにしてしまうのは横暴かもしれま

せんが、計算はおろか、時計を見たり、何かを数えたりするときにも言い間違いや見間違いがよく起こるので、数字とは相性が悪いのだと思っています。そんな私にとって、高専で学ぶという選択をした皆さんはすごい存在です。実は理系科目はそれほど得意ではない、という学生も中にはいることを、ここ数か月で知りました。しかし、将来の目標を早いうちから考え、実現しようとする高専生のことを素晴らしいと思う気持ちは、着任当初よりも強くなりました。

さて、こんな私が専門としているのは、平安時代の物語文学です。平安時代の人と話すことはできませんが、書かれたものを通してその時代に生きた人々のことを知り、思いを馳せることはできます。そうした経験から、言葉を通して他者、あるいは自分自身を知り、想像する力を皆さんに身に付けてほしいと思っています。そのためにできることを日々試行錯誤しながら取り組んでいます。時には数字とも向き合いながら。



言葉が苦手の私。

一般科目教室

マグラブナン ポリン アンナ テレーゼ

数学と着物が好きでフィリピンからのポリンです。これまでに20カ国以上で講義を行ってきました。私の研究テーマは、数学教育、学習における反射、国際的な学習組織についてです。これらの研究には、表現や多くの会話が伴います。しかし、私は内向的で、言葉遣いがとても苦手です。そんな私が、どうやって日本にいるのか。言葉以外にも様々な表現方法があることを学びました。私は学生の時にスポーツや出版物、地域貢献活動などに参加しました。自分の専門外の本も読んだり、ドキュメンタリーを見たりしました。私は自分の専攻が大好きです。日本では、文化について読んだり、旅行したり、温泉や地元のレストランに行ったり、着付けのお稽古をしています。仕事と勉強と休養のバランスをとりながら、たまには冒険をするようにしています。やはり手を動かすことで会話が始まります。何かを知って

Special Interview



いれば誰かに話しかけやすいし、好奇心があれば質問もしやすい。言葉がなくても、一緒に活動することができます。自分自身に様々な出来事や知識や興味を持たせることがあれば、言葉が苦手でも、他の人とつながることができる。未来の革新的なエンジニアとして、自分をつなげて表現することができれば、より大きな世界を開くことができると思います。



福井高専に参上!

事務部長 中島 賢也

4月1日付で事務部長として着任しました中島です。福井県で生活するのは今回が初めてとなります。私の出身地は、昨年の大河ドラマ「麒麟がくる」でも紹介された明智光秀の領国「丹波国」に位置する京都府南丹市です。本校周辺が丹南地区ということで、非常に親近感を覚えています。

この半年間、本校が地域に根差し地域からの期待が大きいことを実感しました。本校学生は、規律もあって活気もあり、多くの可能性を感じます。学生の皆さんが少しでもよりよい環境で学校生活が送れるよう、教職員の皆さんと協力しながら貢献したいと思います。



本校に着任して

総務課 人事労務係 大矢 啓治

4月に約3年ぶりに戻ってきました。ブランクがあり、最初是不安でしたが、すぐに記憶がよみがえり、ずっといたような気さえしています。毎日自転車通勤しています。日野川のせせらぎ、日野山の山影、風にそよぐポプラ並木、かつてと変わらない、おだやかな風景があります。確かな変化は、コロナ禍と誰もが齢を重ねたということでしょうか。齢を重ねることは、悪いことばかりではないと思います。本校に毎日少しでもよい変化があることを願います。また、おこがま

しいですが、私の仕事が、その一助になればと思います。



本校に着任して

総務課 契約係 松山 泰虎

今年の3月までは、大学で授業を受けキャンパスライフを送っていた日々から、今年4月から福井高専の事務員として着任し、社会人1年目を迎えていることに不思議な感じです。また、初めての福井県に住むため、文化等の違いにも戸惑っています。もう半年近くも働いて住んでいますが、コロナの関係で出かけることが難しいため、まだ分からないことだらけのため、どこかオスメのところがありましたら教えていただければ嬉しいです。

趣味は、バスケ観戦と水出しコーヒー作りと読書(漫画)です。



福井高専に着任して

総務課 契約係 小林 利津子

異動が決まったその日に代表電話に連絡を入れると「おかえり!」と言われてとても感激いたしました。4年ぶりにこちらに戻ってまいりました。

実は、私はその前の平成14年度～17年度にも教務係におりましたので再々再着任?になるのかもしれませんが。そのころに学生だったM科の〇〇君が本校で教員になられていたので着任してまず驚きました。

大学ではペーパーレスで電子決裁が主流となっていましたので、久しぶりの紙媒体の書類に圧倒されました。また病院ではコロナに関する業務が毎日のようにありましたのでその煩わしさから少し開放されたのが何よりです。本当に早く収束することを願うばかりですね。今後ともよろしくお願いいたします。

令和3年度学校行事写真



新入生オリエンテーション研修①



新入生オリエンテーション研修②



球技大会



学生表彰①



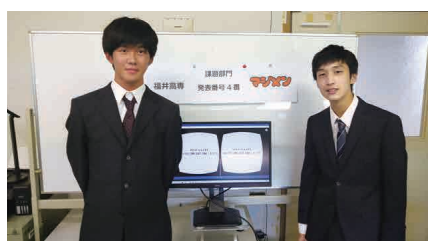
学生表彰②



明るい選挙出前塾



プロコン全国大会①



プロコン全国大会②



プロコン全国大会③



クリーン大作戦



弁論大会①



弁論大会②



ロボコン東海北陸地区大会①



ロボコン東海北陸地区大会②



ひまわり教室

編集後記

本号では様々な学校行事や、本年度着任された先生方の紹介がされています。昨年度から様々な面で活動が縮小されている社会情勢ですが、その中でも負けずにできる限りのことを頑張る学生の姿が映っております。また先生紹介を通じて、普段は分からない先生方の一面を知ってもらえればと思います。(西城)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日: 令和3年11月25日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL: 0778-62-1111